

## 令和5年度交野市市民文化財講座 質問と回答

Q 1-1. 秀吉は関白、家康は征夷大將軍になった。関白と征夷大將軍どちらが上なのか？

Q 1-2. なぜ同一にしないか（同一の官職にならなかったのか）？

A 1-1. 関白は従一位、征夷大將軍は従四位で、関白の方が朝廷の官位では上ですが、両官職の位置づけは時代ごとに変化しています。

関白は平安時代に天皇を補佐するために置かれました。関白は政治を大きく左右し、絶大な権力を得ることのできる官職であり、一部の公家のみがつくことができました。

征夷大將軍は、奈良時代に蝦夷を討伐するため臨時の官職として置かれたものでしたが、源頼朝がその意味を大きく変えました。奥州藤原氏の討伐にあたり征夷大將軍になった頼朝は、鎌倉で日本史上初の武家政権を確立しました。これ以後、征夷大將軍は武家政権の長がつく官職になりました。武家政権が朝廷の権威を上回った鎌倉時代や室町時代においては、征夷大將軍は関白以上の権力を得ることになりました。

室町幕府の衰退後に実権を握った織田信長は征夷大將軍になっておらず、関白と征夷大將軍の上下関係は不明瞭になっていたようです。

A 1-2. 武將であった秀吉は、近衛家の猶子となることにより、公家以外の人間でははじめて関白になりました。これは歴史上、極めて異例のことでした。豊臣氏が関白として天皇を助け、国をおさめる体制を秀吉は目指したようで、秀吉の退任後も、甥の豊臣秀次が関白に就任しています。

これに対して、秀吉の死後、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、1603年に征夷大將軍に就任して江戸幕府を開きました。豊臣氏が目指した関白就任による国内統治とは異なる道の家康は選んだということになりますが、その理由については諸説あり、はっきりわかっていません。

Q 2. 平井家には家康の「伊賀越え」の時に村人に案内させたということが書いてある「古文書」があるのですか？

A 2. これまで調査された平井家所蔵の古文書等では、「伊賀越え」を助けた伝承に関する記述は確認されていません。平井家文書全体が調査されたことはこれまでないため、今後の調査の中で確認されることがあるかもしれません。

講座で紹介した家康ひそみの藪伝承は、星田で語り継がれていたとされるもので、郷土史家であった西井長和氏がその著書で紹介しています。

Q 3. 印地山は妙見坂2丁目のどのあたりでしょうか。

A 3. 妙見坂2丁目付近全体です。

Q 4. 星田徳川勢1万5千人の食事は、泊りはどうしたのか。

A 4. 徳川家康は、星田の村長である平井家にて一泊しました。野戦に慣れた家康は、最低限の兵糧しかもっていなかったため、平井家は家の堀でとれた鯉を料理し、もてなしたといひます。家康配下の大軍は、星田村内にはおさまりきらなかったようであり、隣村の打上村（寝屋川市）にかけて野営して、豪雨のなか豊臣方の奇襲に備えたといひます。